

都道府県・ 指定都市番号	59	都道府県・ 指定都市名	京都市	研究課題番号・校種名	3 (5) 幼稚園・小学校
				領域名	幼小接続
研究課題	<p>学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>(5) 幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るための指導計画の工夫、及び指導内容、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p>				
ふりがな 学校名 (園児・児童数)	<small>ふしみ すみよし</small> ・京都市立 伏見 住吉 幼稚園 (82 人) <small>ふしみ すみよし</small> ・京都市立 伏見 住吉 小学校 (442 人)		学校・地域の特色及び実態等 地域に根差し、愛され、小学校は創立 113 年、幼稚園は創立 106 年の歴史の ある幼小であり、細い道路を隔てて隣 接している。		
所在地 (電話番号)	幼稚園	〒612-8315 京都市伏見区中之町 478 番地		075-601-3652	
	小学校	〒612-8314 京都市伏見区住吉町 455 番地		075-611-5243	
研究内容等掲載ウェブサイト URL	幼稚園	<a href="http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=501408">http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=501408</a>			
	小学校	<a href="http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=116602">http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=116602</a>			
<b>研究のキーワード</b> ・ 本地域の実態に即した接続期教育課程 ・ 安心・安定と主体性 ・ 「必要感」「対話」「達成感」 ・ 人的関わりと環境構成 ・ 数的感覚の学びの芽生え					
<b>研究結果のポイント</b> ○カリキュラムマネジメントの視点から、接続期教育課程の改善を進めた。 ○出前授業や定例協議、保育・授業合同研修会、環境部会を通して、幼小接続の視点で、教員同士が協力し合い、つなぐべきキーワードを意識した保育・授業づくりができた。 ○遊びや生活の中の数的エピソードを分析し、幼児期の数的感覚の学びの芽生えの育ちの道筋を示すとともに、小学校での算数の授業づくりに生かすことができた。数的感覚の学びの芽生えの育ちのみならず、必要感・対話・達成感等のアクティブラーニングにつながる視点を小学校につなぐことが重要であることを確認した。					

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

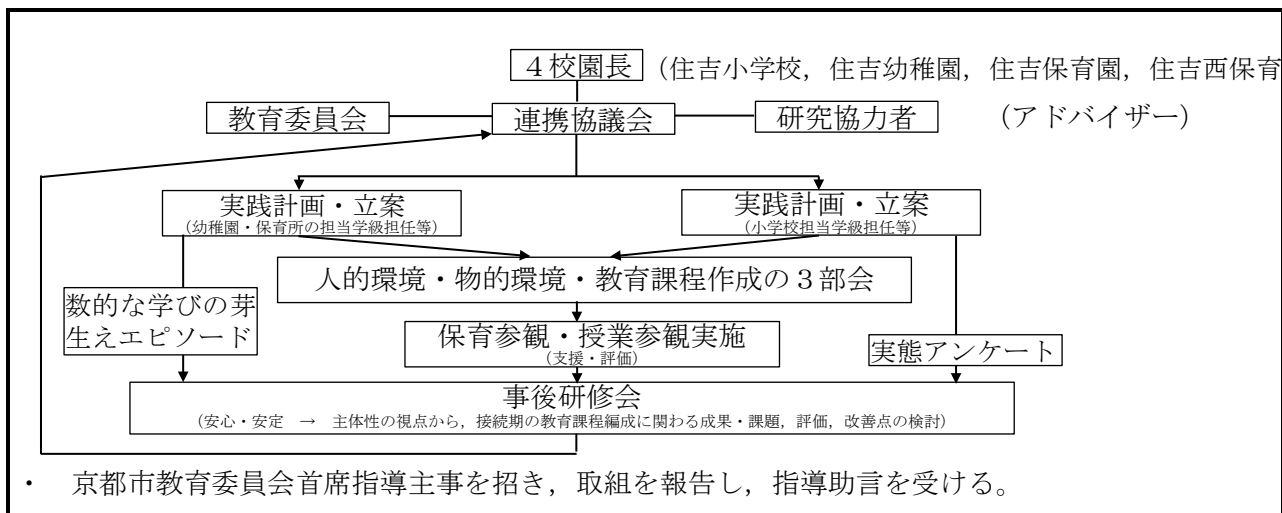
子供の主体性を育む幼小の円滑な接続の在り方を探る  
 ～幼児と児童の数的感覚を中心に～

### (2) 研究主題設定の理由

本地域の子供たちは、幼小ともに素直で優しく、興味のあることや与えられた課題には積極的に取り組むことができる。その一方で、教員の支援に頼ったり、思いがあってもそれをうまく表現できなかつたりするなど、自信のない様子も見られていた。そこで、幼児期においては、自信と自立を育み、小学校教育へつなぐこと、小学校においては、幼児教育の成果を生かし、主体性（自ら進んで遊び学ぶ姿・自分の力で遊び学ぶ姿）を引き出すことを目指している。友達や教員などと関わりながら、自分で考え、判断し、行動する子供を育みたいと考えて研究主題を設定した。

昨年度に幼小同一形式の接続期教育課程を作成し、今年度はその検証・改訂を進めてきた。安心安定から主体性の確立のために、子供同士の交流とともに、出前授業や公開授業・保育の合同事後研修、数的感覚の学びの芽生えエピソードの交流など教員間交流をさらに充実させてきた。

### (3) 研究体制



### (4) 2年間の主な取組

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の姿から導き出したキーワード, 安心・安定と主体性を幼小共通の課題として確認し, その視点から保育参観・授業参観を行い, 子供の発達の理解や教員の援助・環境構成について学び合った。</li> <li>・その具体的な場面として, 幼児の数的感覚の育ちに着目し, 幼児期の数的感覚の学びの芽生えと捉える姿を記録し, 小学校教育における算数科等の学びとの関連整理を進めた。</li> <li>・年長児後期 (9月～) の姿から, 安心・安定と主体性を育む環境構成や援助の在り方を明らかにし, それに基づいて, 小学校へつなぐ視点を持った教育課程を作成した。</li> <li>・1年生当初の安心・安定と主体性を育む環境構成や援助の在り方を7月までの児童の姿から週案形式で作成し, それに基づいて小学校スタート期の教育課程を作成した。</li> <li>・第1年次の研究報告会を開催した。(全学年の保育・授業公開を含む)</li> </ul>
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度新入児童の観察や出前授業における教員間の交流を通して, 昨年度作成した接続期の指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直し, 改善を図った。</li> <li>・1年生の姿を見通し, 5歳児後期の幼児の姿から幼稚園教育課程の見直し, 改善を図った。</li> <li>・研究授業・保育の合同事後研修を通して, 数的感覚の学びの芽生えのエピソードをもとに, 幼児期後期に見られる発達を小学校入学期につなぐキーワードを必要感・対話・達成感とし, 支援や援助・環境構成のあり方について交流を深め, 保育・授業づくりに取り組んだ。</li> <li>・小学校では, 多様な子供の学習実態を把握するために実施したアンケートを個々に応じた指導に生かしたり, 学習に必要な素地を養えるよう基礎学力向上に取り組んだりした。</li> <li>・第2年次の研究報告会を開催した。(全学年の保育・授業公開を含む)</li> </ul>

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ① 本地域の実態に即した接続期教育課程の改善を図る。

小学校スタート時から, 幼小で環境整備を進めたり, 幼稚園教員の小学校での出前授業や教員間の定例情報交流を行ったりして, 安心・安定につながる支援・援助の在り方の交流を進めた。そして, 修了時まで育てておくべき姿やスタート時の支援の在り方の改善点を接続期教育課程の改善に生かした。

## ② 幼児期の数的感覚の学びの芽生えを小学校教育に生かす。

幼小の接続を考える具体的な場面として、幼児の「数的感覚【数・量・図形等に関する感覚】の学びの芽生え」を取り上げ、幼稚園での日々の遊びや生活の中に潜む幼児の数的感覚の学びの芽生えの発達過程を明らかにしてきた。そして、小学校教育の算数科等の授業へのつながりを整理すると共に、学びの過程をつなぐ必要感・対話・達成感をキーワードに保育・授業を創るとともに、支援や援助・環境構成のあり方について交流を深めた。

### (2) 具体的な研究活動

#### ① 本地域の実態に即した接続期教育課程の改善を図る。

昨年度、「安心・安定」を重視することとし、それを基盤に自己発揮し「主体的に活動する」姿を目指して作成した接続期教育課程の検証を進めてきた。入学当初の新しい人間関係の中での「安心・安定」を特に重視し、まず、教員との信頼関係づくりを基盤にした。そして、教員の主導で学習するのではなく、子供の興味や関心を生かし、安定して授業に参加するための導入の工夫として、幼稚園や保育園で経験した遊びやゲーム、具体的なものとの関わり等を通して、子供自身が発見をしたり、課題を見付けたりすることのできる授業内容を考えた。

そして、さらに一歩進めて、幼稚園教員による1年生への出前授業を実施した。出前授業を振り返った記録を作り、小学校教員と定期的な情報交換を行う事で、幼稚園で行っている遊びの効用や、幼児期に1年生の授業に必要な力を育てる重要性について認識を深めていった。出前授業では大半の児童が遊びを一緒に楽しむ中で、数名だけが遊びに一步踏み出せない姿があった。これらの児童たちは授業にも入りづらいという姿があり、児童たち一人一人の行動の奥の気持ちを読み取る援助、繋がる楽しさを感じられる援助、行動を否定せず意味を問う言葉かけ等々の援助について、教員間の交流を深めた。そして、小学校の「児童の興味関心にあった活動を取り入れる支援」や「タイミングをとらえ、背中を押す支援」へとつないでいった。

これらの人的交流と環境設定の物的交流を進める中で見えてきたことを、幼小の接続期教育課程の改善に生かし、今年度の改訂内容を赤字や吹き出しで書き加えていった。また、今年度の幼児・児童の実態に合わせて加筆修正も行った。今後も幼児・児童の実態に合わせて内容を見直し、改善を進め、改善を重ねる中で、より実態に応じた教育課程を確立させていきたいと考えている。

#### ② 幼児期の数的感覚の学びの芽生えを小学校教育に生かす。

昨年度より、幼児の数的感覚の学びの芽生えと捉える姿を記録し、発達の様相の根拠となる事例を集積してきた。その中で、各年齢の発達過程を省察する中で、幼児の数的感覚の発達過程には「感じる・気づく」「試す・比べる・分類する」「(やりたいことの) 実現への必要感から遊びや生活に取り入れる」という発達過程があるのではないかと考えた。そこで幼児の数的感覚の発達過程に合わせて各エピソードを分類し一覧表を作成した。

また、5歳児後期のエピソードからは、遊びを継続させ、さらに面白くしたいという「必要感」、友達との会話を通して考えを深めまとめていく「対話」、遊びの中でできた・わかったと感じる「達成感」が次への意欲につながり、主体性をもって取り組む姿が多く見られた。そこで、幼児期後期のこのような学びの過程を小学校1年生の学びの過程へとつなげていきたいと考え、小学校と共有した。

小学校では、5歳児後期のこのような学びの過程の必要感、対話、達成感を全学年の授業改善のキーワードとして取組を進め、単元や各時間毎の本時の導入では、意欲を高める工夫をして必要感をもてるようにし、単元や本時の終末では、「学習が分かった」「他教科や実生活に活かせた」と達成感をもてるようにした。また、児童が必要感を持って学習に臨んでいると、目的を達成させるた

めに自然と対話が生まれてきた。

さらに、出前授業でのエピソードも参考にして、授業の中で「つぶやき、うなずき等の反応を見逃さない」「間違い・ハプニングを『成長のチャンス』と思って利用する」「『分からない』も共感して大事にする」という基本姿勢を堅持していくこととなり、さらに「分かる」「できる」授業を目指して進めてきた。

### 3 研究の結果と今後の取組

#### (1) 研究の結果

##### 成果

- 昨年度作成した接続期教育課程を子供の実態及びカリキュラムマネジメントの視点から、改善を進めることができ、毎年、加筆・修正を加え改善する意味を共通認識することができた。
- 教員同士が幼小接続の意義を見出し、定例情報交流や保育や授業を伴った合同研修を進め、共に教育環境を整備したり、保育・授業づくりについて一緒に考えたりすることができた。
- 数的感覚の学びの芽生えのエピソードから幼児期における数的感覚の育ちの道筋を示すとともに、幼児期の最後には小学校の授業にもつながる学び方をしていることがわかった。
- 幼稚園教員による接続期の1年生に対する出前授業が実現できたことで、保育者の専門性を生かし、子供を中心に、幼小の教員同士が共に接続期の支援の在り方を考えることができ、全学年の支援の在り方にもつなげることができた。そのことが子供たちの安心感を引き出すことになった。
- 幼小接続の必要性を教員が研究・実践を通して自ら学び取り、保育・授業づくりの姿勢が変容した。そのことで、子供の必要感を伴った学習展開、思考・判断・表現力を育む学習展開が増え、「わかる」「できる」授業が増えてきた。

##### 課題

- 接続期の出前授業における保育者の具体的な援助を幼小の教員同士が共に学び、支援をつなぐことを試みたが、実際には今までの経験値や指導法を見直す難しさを感じた。今後は、スタートカリキュラムの取組を、事前計画も含めて交流を進め、実践を記録しながら全教員で振り返り、共有していきたい。
- 活動の楽しさと学習のねらいとの関連をより意識して授業が進められるよう、子供の実態や環境構成についての再構築を進めていきたい。
- 地域の2保育所との交流・連携が今後の課題である。小学校が中心となった呼びかけと幼稚園が核となる保育を公開した地域の保幼小の研修が進められるようにしていきたい。

#### (2) 今後の取組

～さらなる安心・安定、主体性が育まれる保育・授業をめざして～

2年間の幼小接続の取組の成果を幼小共により一層意識して、この取組を次年度以降も継続し、接続期教育課程の継続的なマネジメントを進めていきたい。安心・安定から主体性の確立に向けた取組、“必要感・対話・達成感”を表す幼児期最後の姿を小学校につなぐこと、アクティブラーニングの視点を取り入れた実践の深化を目指したい。また、幼児期の「遊びや生活の中の数的感覚の学びの芽生えの発達」の姿を明らかにしたことを生かし、幼児期の発達の姿や幼児教育のあるべき姿につながる幼稚園の実践の発信を進めていきたい。さらに、地域の2保育所が参加しやすい工夫をしながら“地域の保幼小連携”を進めていきたいと考えている。